

双松会報

第10号(「双松」通巻15号・「松高北高同窓会報」通巻第15号)

発行 松江市奥谷町164
島根県立松江高等学校内 双松会事務局 TEL ②4888・②0655
印刷 有限会社 高浜印刷所 TEL ②3000



この春、北高校では校長の目次先生が定年退職、教頭の岡野先生が津和野高校の校長に転任されたあとへ、母校出身の松本先生と井原先生が着任されました。松本、井原両先生は、共にこれまで北高校の教壇に立たれた経験者であり、また岡野先生も出身母校の校長になられた訳であります。こうした人事を行われた県当局の考へ方は知りませんが、とにかく出身母校の教壇に立ち、まして校長、教頭などの責任ある地位に着くということには、柔と剛、軟と硬をとりまぜたような、明るいものが感じられます。両先生の二層の御活躍を期待いたします。

次に竹下登氏のことです。両先生が、せつなく総理大臣という最高の地位に立たれ、われわれ卒業生としては、百校の教壇に立ち、まして校長、教頭などの責任ある地位に着くということには、柔と剛、軟と硬をとりまぜたような、明るいものが感じられます。両先生の二層の御活躍を期待いたします。

二本松が一本なくなつて淋しくなりました。あの立派な木で作った門札や短冊掛も沢山の申込があり、もう材料がなくなつた由ですが、小さな茶托ならまだ作れるので、ご希望の人にお頒けする由です。私も先般別に残して乾燥中の原木を見ましたが、之を充分に強く期待する所であります。

挨拶

会長 柴田 午郎

年一度という誇りを感じたのでありますが、不幸にもリクルート事件の犠牲となつてしまわれました。残念とも何とも言葉がありません。しかし竹下流の忍耐政治は、新聞紙などでも相当高く評価されました。私も長い間おつきあひして来ましたが、氏が怒つた顔、声を荒げたのに一度も接したことがありません。しかも地位は日本第一の政治家。まだ若い氏は必ず近い将来に傑出重宝せられることでありましよう。卒業生の一人として強く期待する所であります。

質実剛健

校長 松本 幹彦

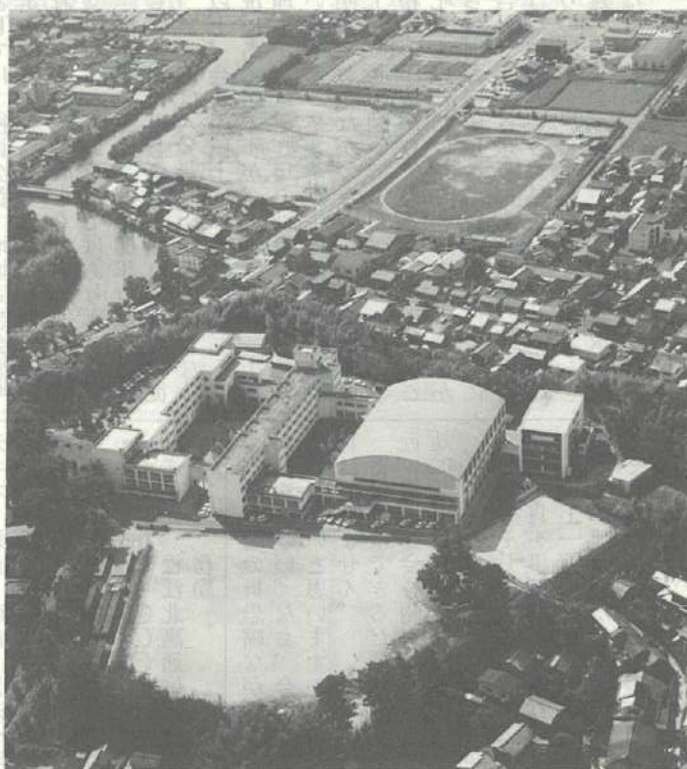


赤山台地を包む木々の緑は日毎に深みを増して来ました。静かで、美しい環境の中で、生徒たちは、若くして生き生きと勉強や部活動に励んでいます。

ただ、山頭に亭々とそびえ立って、紅顔の美少年の活躍を静かに見守り続けてきた双松の一本が、やはり病に倒れ、その空間がなんとも言えぬさみしさを漂わせています。

起雲館の横に、西村房太郎校長先生の揮毫になる「質実剛健」の碑があります。この揮毫をいただきに諏訪秀富先生と川崎のお宅にお邪魔したとき、西村先生の「回顧録」に載せられていた「松中の生徒は概ね頭脳が緻密でしかも着実勤勉、...唯強ひて難を言ふと、生徒は大人ない代わりには稍弱気が欠けて消極的であったので、これ

さへ矯正すれば何処に出しても遜色がないと確信しつつ、生徒の心身鍛練と元気の養成に重点を置き「質実剛健」の校風を樹立せんことを努めた」と同じ趣旨のお話を感銘深く伺つたことを今も鮮明に覚えています。



赤山上空より第2グラウンドを展望

乾かして割れないよう、赤山の超雲館にデンと据え置く原木の面影を、どのようなデザインにすべきか皆様の智慧を拝借したいと思ひます。何しろ巨大な幹ですから、どんな形にするのが効果的なのか？です。

二本松を伐つた当時、赤山周辺の緑を大切にすゝる資金を皆様にお願い致しましたが、一千万円を越える資金が集まりました。大切にしていつてもわれ等のこのころのふる里としての赤山の周辺を、美しく維持してゆきたいものであります。

兄弟校松江東高校の野球部が、開設後日も浅いのにかわらぬ、春の甲子園で立派に戦つて来たということが刺戟になったせいも、北高校でも沈滞していた野球部が元気を出した模様であります。

大学入試に苦勞する生徒諸君とスポーツの関係など、いろいろ専門的には考へるべきこともあるとは思ひますが、私老年になつて考へてみると、若き日のスポーツの楽しさは、人間にだけ許された天賦のものだとつくづく思われます。スポーツといえはすぐプロに結びつくこの頃はありますが、プロ精神に犯されぬ、純真な学生スポーツを切に期待するものであります。

であり、富に処する教育の根底に据えるべきものではないかと思ひます。

さて、在校生の現状ですが、「文武両道」の精神に則つて、一人ひとりの生徒が、勉学の面でも部活動の面でもおおいに頑張つてくれています。

この「文武両道」の精神は、「質実剛健」の理念に相通するものだと思つております。

限られた時間内で、勉強と部活動の両方に全力を傾けるといふことは、精神的にも体力的にもとても苦しいことです。しかし、生徒たちが、勉強と部活動の両立を目指して、その苦しいに耐え、苦しさを乗り越えるべく真摯な努力を重ねることによって、学力の

層の向上が図られるとともに、強い精神力が養われ、また、助け合い、励まし合い、思いやりの心が培われ、さらには「自由と規律」の關係はどうあるべきかを体験を通じて肌で知ることができると確信しています。

二十一世紀の担い手である生徒たちが、自ら学ぶ意欲をもち、激しい社会の変化に主体的に対応できる豊かな心をもち、たくましく生きる人間に育つてくれるよう、これからも全教職員が心を一つにして、「文武両道」の教育を強く推進していかねばならないと考へております。

今後とも、同窓生の皆さんの暖かいお力添えをお願いいたします。

松くい虫

樹令二百十六年をほこつた双松の一本が松くい虫のため昨年二月十三日に斧入れられ伐採された。明治三十年(一八九七年)北高の前身、松江中学の新校舎がこの赤山の地に竣工したとき、当時、この土地を所有していた塩野家は県にこの土地を譲渡する際、二本松を手離すのを深く惜しんで「二本松は吾家の祖先伝来の愛樹、未永く大切に保存して貰い度い」と切望され、県は校舎の敷地造成にあたり、松の生えている場所をそのまま台地として残し松を保護した。この二本の松が「双松」として松江中学の象徴的存在として仰がれるようになったのは明治三十九年の創立三十年記念式の頃からと言われている。移り変りの激しい、この世に幾星も替つた松も松くい虫のため枯れ、単松になつてしまつた。今年も松の前で五月・六月に第四十九期・第五十期の諸先輩の集りがあり、往時を偲べれ感慨ひとしおのように見受けられた。松くい虫・マツノスダラカミエリの被害は今も衰えることなく続いている。残つた一本の松を松くい虫から守ろうと今年五回スミパイン剤・ダイオキシ水和剤で消毒し、松の周辺に養分を与えるべく施肥を行っている。一方、新生松を忌部の森林組合の圃場で二百余本育成中である。

ところで、北高の西側にある第二グラウンドに野球場を新築し、この野球場の北田川沿いに百十米にわたつて「ヤモモ・カイズカイブキ」を、中川沿いにプラタナスを植栽し、十数年後には陰をつくり、又道路の反対側にある上競技場もテニスコートを除く部分の整地を完了した。グラウンドの表土を離し真砂土を入れてきれいに改装した。

さて、今春の大学入試では昨年度より方式が変更になつたが国立大学合格者、私立大学合格者ともに好結果であった。又六月に行われた県高校総会体育大会では各部とも大健闘し総合成績では昨年同様四位だったが一位との点差はわずかに四ポイントが一位と、かに立派な成績をあげてくれた。文武両道学習活動と部活動の両立、文武両道輝かしい伝統を守るべく教職員、生徒一体となつて頑張つていく。



平成元年度 第一回役員会開催のご案内

本年度第一回役員会は、約八十名の出席者を得て去る六月二十二日に一文字屋ホテルで開催された。

議題

- 一、会務報告
一、昭和六十三年度会計決算報告
並びに監査報告
一、二本松関係会計決算報告

昭和63年度 会務報告

昭和63年 役員会(一文字屋ホテルにて)
会務報告・昭和62年度会計決算・二本松関係会計決算・名簿会計決算・

平成元年度双松会会計予算書

Table with columns: 収入, 支出, 費目, 予算額, 前予算額, 増減(Δ), 説明. Includes sub-tables for '収入' and '支出'.

昭和63年度双松会会計決算書

Table with columns: 収入, 支出, 費目, 予算額, 決算額, 増減(Δ), 説明. Includes sub-tables for '収入' and '支出'.

平成元年度予算

Table with columns: 収入, 支出, 費目, 予算額, 前予算額, 増減(Δ), 説明. Includes sub-tables for '収入' and '支出'.

昭和63年度決算

Table with columns: 収入, 支出, 費目, 予算額, 決算額, 増減(Δ), 説明. Includes sub-tables for '収入' and '支出'.

通信制同窓会役員会報告

なごびに寄付のお願い...

去る7月2日(日)、松江市婦人会館において平成元年度役員会を開催しました。

出席の役員(今年度で3年の任期終了)は、弥栄村から遠来の徳田副会長と紅一点の吉田シゲ子さんを含む14名で例年比して多数だったことは誠に嬉しく思いました。

なりませんが残念に思います。事務局からは、石倉教頭、長谷川、山根先生と坂本の4名が出席しました。

次いで平成元年度予算の審議に移りましたが、この中で、定通体育大会の補助を先の決算でもあったように、懐る具合も貧しいので本年は昨年の五〇〇〇〇円から二五、〇〇〇円としてはどうかという提案がなされ、これについて

円札の束やお渡しした旅費のコインで箱が一杯になりました。集計してみるとこれがナント二三、〇八〇円也。すかさず徳田さんより雑収入を二五、〇〇〇円プラスして今年度の補助金も五〇、〇〇〇円とするように提案され衆議一決しました。

出費多端の折恐縮ながらよろしくご支援ください。なお、今年より毎年お願いしたいと思っておりますので特に締切り日は設けません。

学園祭

今年もまた夏が来て、学園祭のお知らせする季節になりました。九月八・九・十日の三日間、赤山をゆるがせる(青)青春の祭典をくりだげたりと考えています。どうかご声援下さい。

送付先 松江北高通信制同窓会事務局

「同窓会名簿」発行についてお知らせ

5年毎の改訂を明年にひかえ、事務局では準備を進めています。この同窓会名簿を、より一層充実、正確なものとするため皆様のご協力をよろしく願いたします。

発行予定 平成2年8月
予約領価 3,800円

平成元年度、県高校総合体育大会

男女総合、四位

今年度の県総合体育大会は、前期が六月一日から三日まで、後期は六月八日から十日まで、松江、出雲、益田を中心に関催された。本校からは総勢五百二十名の選手団を派遣し、昨年(四位)を上回る成績を期待したが、結果は昨年と同じ第四位に終わった。しかし、得点は昨年を上回る、五十七点を獲得し、第一位の松江商高との得点差は、わずか四点という、上位四校の熾烈な戦いであった。この好結果は、来るべき新人戦、来年の総体に向けての大きな飛躍につながるものと、期待している。現在、部活を終えた三年生は、来春の入試をめざして勉学に懸命である。一、二年生は、来年こそ、再び総合優勝を奪回すべく、練習に励んでいる。以下、活躍が顕著だったものをあげておく。

来年の総体に向けての大きな飛躍につながるものと、期待している。現在、部活を終えた三年生は、来春の入試をめざして勉学に懸命である。一、二年生は、来年こそ、再び総合優勝を奪回すべく、練習に励んでいる。以下、活躍が顕著だったものをあげておく。

陸上部

- 男子総合 二位
女子総合 三位
男子 一〇〇M 一位 高橋
男子 二〇〇M 一位 高橋
男子 四〇〇Mリレー 一位
女子 走幅跳 一位 島谷

漕艇部

- 男子 ナックルフォア 一位
シエルフォア 一位
女子 シェルフォア 一位
シングルスカイ 一位 加藤
男子総合 一位
女子総合 一位

水泳部

- 男子団体 四位
女子団体 二位

- 男子一〇〇M自由形 一位 北村
女子一〇〇M自由形 一位 佐藤
男子二〇〇M " "
女子二〇〇M " "
男子四〇〇Mリレー 一位

剣道部

- 男子団体 二位
女子 " 五位

弓道部

- 男子団体 三位

軟式陸球

- 男子団体 五位

バレーボール部

- 男子 三位

バスケットボール部

- 男子 五位 女子 五位

バドミントン部

- 男子団体 四位

テニス部

- 男子団体 三位

今春の進路状況

一九八九年入学試験は共通一次試験最後の年であった。共通一次の物理、生物の得点修正の問題など波乱含みの入試であった。また、西日本の国公立大を中心に分離・分割入試が導入され、現実には複数受験できない状況となった。このことは、受験生の国公立大離れをますます顕著なものとし、昨年度に比べ受験生総数が五万人増えているのに対して、共通一次で約一、〇〇〇人、二次で二二、七〇〇人ほど減少した。結果的に増加分を私立大が吸収し、中堅校と呼ばれる大学を中心に難化が一層すすんだ。さらに、国公立大の思惑で、毎年のように変わる受験制度は、受験生に大きな不安を与えたのはもちろんのこと、進路指導をする学校側も複雑な入試制度のなかで、その対策に苦勞した。

このような状況の中で、我が北高の生徒諸君は、よく健闘し、昨年を上回る大変立派な成績であった。国公立大においては、東京大学八名、京都大

ああ！山本幡男君

松中46期 田平 弑

幡男君は特務一等兵だったばかりに戦犯として非人道的取扱いを受けて悲惨な人生を終らねばならなかったが、飽く迄も道義を信じて敬虔な人生を送れと愛児たちに望んでいるのである。

昭和三十年九月日本社会党議員団が来訪したので、アムール会の人々は叶里子議員に幡男君の遺書を遺族へ届けて貰うことにしたが松中が発見押収の心配があり、瀬崎氏は遺書そっくり

思い出

松中五十四期(松九会) 伊藤 松三

同じ遺書を作って「ど」危険を犯しても日本に持ち帰って責任を果して見せる」と遂に嚴重な監視を潜り、この奇蹟を達成した。生活を共にした人たちからの手紙を通してロマンティックでユーモアたっぷり彼の彼が偲ばれる。(完)

たしか、十余年以前だったと思うが、同期生会合の席上、誰云うともなく、「吾々の会に名称が欲しい」という議論が起り、活発に話し合った。その中で、昭和九年の卒業だから「昭九会」としてはどうか、そのほか、諸々の意見が開陳されたが、結局「ふるさと松九」という声が多数を占め、現在の「松九会」ということになったことを先づ述べておきたい。

昭和63年度進学状況学校種別

(平成元年4月集計)

Table with columns for school types (National, Public, Private) and years (61, 62, 63, 1 year), and rows for current, graduation, and total counts.

近畿双松会総会のご案内

事務局長 内田 礼治郎 (49期)

本会は旧制松中の近畿同窓会として発足、以来年々発展し、昨年は創立三十年を迎えました。新制松高・北高の卒業生も男女を問はず次第に加入者が殖え段々と若返りつつあり、ご同慶に堪えません。

お問い合わせは左記へお願いします。大阪市西区本田一四一三九 石倉ポンプ(株)内 近畿双松会事務局 (66期 石倉重男) 電話 〇六一五八三一四九〇

告!! 第十一期

(昭和三十五年卒) 卒業二十周年 記念同窓会 日時決定

平成二年八月十一日(土) 十六時集合(記念撮影) 十七時開宴

場所 ホテル一畑(松江市千鳥町) 電話 〇八五二二二一〇一八八 会費 一二、〇〇〇円 (記念品料を含む) 連絡先 校内幹事 庄司 肇 松江市奥谷町一六四 松江北高等学校内 電話 〇八五二二二一〇六五五

各期たより

田 辺 彊

東京大会記

新緑滴る新宿御苑の西側、半蔵門会館にて五月十日(午後五時三十分より)東京大会を開催致しました。

集へるもの十八名。東京近辺より十一名。島根外より七名。卒業以来始めて会う者が多く若かりし頃の懐かしさで古稀を迎えて禿頭、白髪となり、すぐには思い出せない様子、次から次へと参集する会員、本場に懐かしい昔の二本松の話、赤山健児団の話、丁度六道湖一周の日が未次の大火の日であったこと等思い出はつきない。其の内に定刻となり福田幹事の司会の下に東京大会を開催、物故者への黙禱、昭和三年卒業、其の間昭和天皇と共に生きる。向うには吹上御所が見える。本場によくも生きながらえて本日の集いは驚きの外ない。其の間満洲事変、支那事変大東亜戦争にて幾多の会員を失ひ又深山の病死者も出て今では生存者七十三名となっている。



終りに臨み原田代表幹事の音頭により会員の長寿を祝い、万才三唱、又会う日を期して解散す。

東京内(鈴木正夫、小山均、福田弥次郎、藤井栄)千葉市(江角宣喜)田無市(布施幸治)町田市(江尻美雄)川崎市(坂田治生)大和市(松浦亮)横浜市(家原政夫)仙台市(田中武敏)立川市(京都市(長瀬栄利)松江市(原田卯吉郎、田辺彊、大給礼太郎、熊野喜平、松本卓三)東出雲町(佐藤静夫) 以上

松中の十五期

森山 定

六五会総会開催について 昭和二十年卒業の我々赤山六五会総会を全国菓子大博覧会に合せて四月二十九日(日)に開催することとした。事前準備として、案内状の外に、菓子博実行委員である一方堂社長の高見君が作成した菓子博についての解説文とパンフレットを併せて同封した。又宿泊については都谷君が経営するホテルを格安で確保してくれた。これらの企画の利き目があったのか全国から約八十名が参集し会は盛大な盛況を極めた。先づ、全員が庭園で記念写真を撮った後、会場に移動し、いよいよ五時に開会の運びとなった。初めに物故者(四十三名)に黙禱を捧げた後先づ井戸内会長が懐かしみに溢れる挨拶をした。続いて恩師の高橋忠久先生の挨拶があった。原子についてのお話で、さすが当時物理の先生程あって格調が高く感服した。又同時に学生時代物理の授業で難儀したことが思い出された。続いて、県外組十三名が夫々近況を報告した。最後に東部汽車通生を代表して、牧野君が広瀬町長に立候補する後藤君の支援について一寄せ書き、カンパをする様緊急動議を出し全員一致で決定した。後日諏訪君の激励文と共に届けた。(見事に当選し一同喜びをかみしめた。)いよいよ開宴である、山口君の音頭で乾杯がなされた、酔のまわらないうちに基常君(藤間流)が祝詞として老松の舞を披露した。誠に見事なもので一段と会を盛り立ててくれた。この外、落合君が中学時代の級友の寄せ書きを披露



した、戦争耐て何時皆んなと別れるか分からないと予知し布地に一筆づつ書いてもらった物であった。みんな当時の記憶がなく浦島太郎ものと懐しがりたり、それなりの達筆に驚いていたりその内に宴が段々と盛り上がりあちこちに懐しい輪が出来、松江徹の歌声がきこえなくなつた。料理も会席料理で県外組には郷土の味として好評で最高の酔であった。三時間があつたという間に過ぎ去つた。前本四国架橋公園総裁の山根君の指揮により赤山健児の歌と応援歌が声高らかに響き巨つた、佐藤君のオールマンを最後に中島君の音頭でお互の健康を祈りつつ万才三唱し総会の幕を閉じた。次会には全員参加を期待すると共に後輩の一字屋ホテル社長と司会の上君外幹事諸氏に感謝し六五会の報告と致します。

松高九期

実行委員長 小林 忠夫

卒業三十周年記念同窓会を終えて 松高卒業三十周年を記念して昨年八月十三日、ホテル一畑に於て、恩師五名の外に同窓生一九八名の出席のもとに盛大

三十年ぶりに逢う顔・顔・顔。髪は淡くなつた人。白いものが目立つ人。歳はとつても、やはり昔の面影は、どこかに残っているものでした。

まず記念撮影に始まり、北高吹奏楽演奏。在学中のなつかしい写真のスクリーン上映。開会のことば(司会杉谷雅祥君)。国歌、校歌斉唱、物故者への黙禱。実行委員長挨拶。北高現教諭より近況報告。恩師の早田伊勢松先生の来賓代表挨拶。母校(北高)へ記念品贈呈(皆様からの記念品を纏めました。桜の樹と同窓会に協力いただいた音楽部(楽器購入資金)懇親会(司会岡栄二郎君)。乾杯(松崎健二君)。そして最後に佐草昭先生の万歳三唱でお開きとなりました。

翌日は、ゴルフ組と観光(加賀の潜水方面へ舟で遊覧する組と、昔のなつかしい所めぐり)組に分れ、前日に引き続き、楽しい一日を過ごしていただきました。

次回の同窓会はいつになるかわかりませんが、今度は新しい実行委員長のまとめで、よりすばらしい同窓会が企画されんことを願うものです。尚、各クラスの幹事さんには、同窓会当日までの永い間、大変にお世話様になりました。紙面を借りて、厚くお礼を申し上げます。

おわりに、同窓生の皆様の益々の活躍と、再会を祈念して、松高卒業三十周年記念同窓会の報告といたします。

松江北高普通科三十期生 理科九期生

杉原 伸治

卒業十周年記念同窓会開催さる。母校が赤山に再移転して初めての卒業生である私達普通科三十期生、理科九期生は、早いもので本年三月に卒業十周年を迎えました。全ルーム合同での同窓会を開催しようとの声が二、三年前から高まり、地元に残っている者で第一回目の打ち合わせをしたのが一年前の冬。その後、何回となく準備会を重ねましたが、意外と音信不通の者も多く、準備の大変さを幹事一同身にしみて感じたところでした。

昭和六十四年一月二日、場所はホテル一畑(高砂の間)。天候はどうだろうか、昭和天皇のご容体はどうだろうか、気をもましてつづつ当日を向かえましたが、当日は山陰の冬には珍しく、見事な快晴。東京、大阪方面から飛行機で帰松する者も多く、幹事としては、ほっと胸をなでおろしました。

学生主任でいらした恩師、石橋克也先生に御挨拶をいただき、宴もなごやかに始まりました。懐しい先生のお顔、十年振りの同級生。昔談義に花が咲き、会場のあちこちで歓声があがりました。出席者は総勢で百三十名を超え、準備をした者としては、すばらしい盛り上がりを感じました。

時間はまたたく間に経過し、校歌斉唱、万歳三唱にて閉会することとなりましたが、久々の再会にまだまだ語り足りず、二次会は、同期の岩井隆明君が経営する東本町の「なわのれん」へ集団で大移動することとなりました。初めての全ルームによる同窓会で、幹事に不手際も多く、皆様にご迷惑をおかけしたことは思いますが、またいつか、さらに多くの方々にご参加をいただき、より充実した同窓会を開催できればと思っております。最後にいただきましたが、同窓会開催にご協力をいただきました皆さんの皆様、本当にありがとうございました。紙面をおかりして、お礼申し上げます。

先般、業者より松江中学校、松江高校松江北高校職業別名簿の調査のしがきが届いています。これは業者独自で行っているものであり双松会とは何ら関係がありません。

事務局より 事務局(校内幹事)の転出入 平成元年四月の人事異動 退職 健一(校長)松中66期 転出 春木 清(英)高3期 大社高へ 榎野 和子(英)高13期 松江商高へ 河原 一朗(数)高23期 川本高へ 諏訪部 淳(体)高35期 海士中へ 転入 松本 幹彦(校長) 高1期 県教育委員会から 井原 泰(教頭)高3期 隠岐島前高へ 梶村 互朗(英)高8期 松江東高へ 小村 育代(社)高32期 松江東高へ 福岡 康子(体)高35期 出雲商高へ

目次 健一(校長)松中66期 転出 春木 清(英)高3期 大社高へ 榎野 和子(英)高13期 松江商高へ 河原 一朗(数)高23期 川本高へ 諏訪部 淳(体)高35期 海士中へ 転入 松本 幹彦(校長) 高1期 県教育委員会から 井原 泰(教頭)高3期 隠岐島前高へ 梶村 互朗(英)高8期 松江東高へ 小村 育代(社)高32期 松江東高へ 福岡 康子(体)高35期 出雲商高へ

「双松会」会報第十号をここにお願いします。連載しておりました寄稿「あゝ山本幡男君」は、第十号で終ることになりました。執筆していた田中氏に感謝します。連載中山本氏についての感想等を手紙、葉で寄せて下さった方もありました。きることの意味を考えさせてくれる容でした。原稿を募集しています。い出、近況、何でも結構です。

双松会副会長 浅野務氏(松中60期)平成元年六月二十三日、御逝されました。謹んでお悔み申し上げます。

双松会副会長 浅野務氏(松中60期)平成元年六月二十三日、御逝されました。謹んでお悔み申し上げます。

双松会報訂正・お詫び

一頁 三段 (誤) 超雲館

(正) 起雲館

二頁 一段 (誤) 副会長

(正) 常任幹事

三頁 六段 (誤) 陳言

(正) 諫言

四頁 一段 (誤) 六十二名

(正) 百六十二名

四頁 六段 (誤) 田中式

(正) 田平式